



東洋美術

世界 少年少女 文学全集

東洋童話集

アイヌ 朝鮮
中国 ビルマ
蒙古 台湾 南洋諸島

金田一京助
魚返善雄
松村武雄

訳

創元社

世界
少年少女
文学全集

25

東洋編 1

第二十一回
配本

定価 380円

万一落丁乱丁がありました
たらね取り替え致します



昭和 29 年 6 月 15 日 発行

訳者代表 ^{まつ}松 ^{むら}村 ^{たけ}武 ^お雄

発行者 小 林 茂

東京都中央区日本橋小舟町2ノ4

印刷者 曾 根 盛 事

東京都品川区大井寺下町1430

発 行 所 ^株式 ^会社 創 元 社

東京都中央区日本橋小舟町2ノ4

(大阪市北区樋上町45)

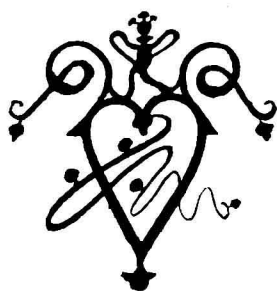
電話(茅場町) 1734, 2064, 4083

振替・東京 1565, 大阪 57099

印刷所 株式会社 扶桑印刷
製本所 鈴木製本所
本文用紙 本州製紙株式会社 特選
本文用紙納入 市瀬洋紙店
ク ロ ス 日本クロス株式会社特製

Printed in Japan

目
次



第 25 卷
東 洋 編 1

世 界 少 女 年 文 學 全 集



アイヌ童話集

金田一京助訳 18

リクンベツのおきな

13

上の太郎・下の太郎

19

六年やしなわれたくまの話

21

朝鮮童話集

野口赫宙訳 27

日の神と月の神

27

歩いてきた山

30

鬼の金棒

31

とらを生けどったうさぎ

36

金のおのと鉄のおの

40

天女ときこり

43

恩をかえしたつばめ

48



シムチヨニイ物語

54

蒙古童話集

服部四郎訳 67

力持の小人

67

欲ばりのカルンバイととんち者のアルダルコシ

74

三人兄弟

84

おじいさんをねらうとらときつね

91

中国童話集

魚返善雄訳 93

へび使いのへび

93

仙人になりそこねた人

98

とらにさらわれた弟

103

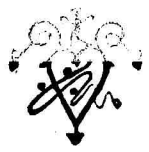
なしをくばった坊さん

107

酒をのんで寝たきつね

113





ビルマ童話集

シュエダゴン・パゴダ物語

秋山修道訳

馬と鳥のふしぎ

117

こおろぎになった子

122

花きちがい

128

李白さん

134

とらになった人

140

ふしぎな鏡

146

ありの国

152

長い長いお城

157

一 ふしぎなおばあさん

161

二 お釈迦さま

163

三 アジエッタ王のねがい

166





台湾童話集

四 海へび王あま

168

五 ふるさとの砂山すなやま

170

六 シングッタラ山

172

七 タジャミンさま

174

八 ナツツ神がみたちの告白こくはく

176

八 バゴダ

178

メラム

179

臆病おくびょうなライオン

183

榎本楠郎 訳
187

白い太陽たいよう

187

山の大男

193

ふしぎな国

199

バナナの木

204

さるのみやげ

207





フィリピン童話集

やしの実と子ども

石になった人

人魚

ふたりの娘

榎本楠郎訳

212

南洋諸島童話集

太陽製造

石の腰飾り

死の起り

鳥のふんのお化粧

二匹のわに

首のぬける男

老婆とひあがったさかな

松村武雄訳

237

251

247

244

249

240

238

237

232

227

223

212





インド童話集

松村武雄訳

どうしてわにのまぶたははれているか

257

だまされたわに

259

ほんとうの父とにせの父

262

ふくろうのたたかい

264

こがねの像

266

小人の出世

276

欲ばりめつき屋

281

臆病うさぎ

285

ききめをなくした呪文

288

知恵者のマホサダー

292

司の名人

298

悪者王子

303

266





ペルシア童話集

松村武雄訳 329

幸運児ファルクスの身のうえ話

一 ルビーのおんどり 329

二 カーフ山の寶石の玉座 335

三 仙女のぼらの園 339

四 四本の黄金のなつめじゆろ 344

五 仙人のカシヤンク 346

夕暮れちがい 307

もの言うほら穴 311

四本手のはたおり 319

知恵のあるばかり者 316

耳なし心臓なしのろば 319

宝さがし 323





六 幸運児ファルクルズの身のお話のおわり……………

351

トルコ童話集

松村武雄訳……………354

四十人の王子と七つ頭の竜……………

354

兄と妹……………

362

でたらめ物語……………

369

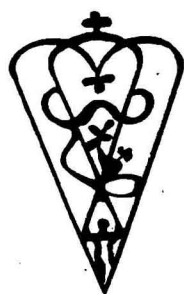
解

説……………

訳……………

者……………373

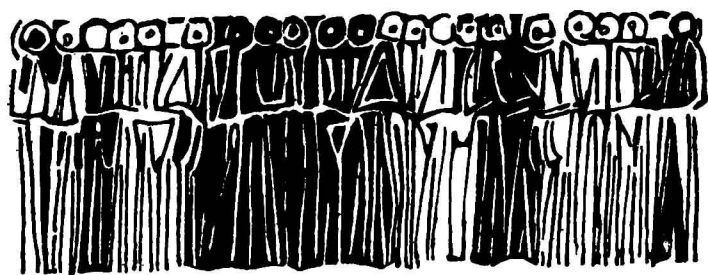




さし
絵

そうてい

田	阿	吉	福	初
中	部	金	田	山
中	展	一	貂	
鶴	也	郎	太	滋
子			郎	

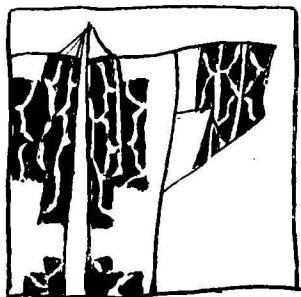


東 洋 童 話 集



アイヌ童話集

金田一 京助 訳



さし絵 福田紹太郎

リクンベツのおきな

——カネランのむかし話——

今はむかし、十勝^{としかつ}のリクンベツというところに、カネランという強い酋長^{しやうちやう}がありました。力が強いばかりか、気も強く、心もただけしく、弁^{べん}ぜつのたくみなことは、この人にならぶ者^{もの}もありませんでした。

そのうえ、カネランには屈強^{くつきやう}なむす子たちがいて、いずれおとらぬ狩^かりの名手^{めいしゅ}ぞろいでした。さてこそ家運^{かいうん}はりゅうりゅうとあがり、広い十勝^{としかつ}じゅうに、肩^{かた}をならべる酋長^{しやうちやう}もありませんでした。

ところが、そうなると、ついにいい気になって、だんだんカネランは、持ちまえの雄弁^{ゆうべん}を悪用^{あくよう}して、近所^{きんじよ}近在^{きんざい}のひとびとへ言いがかりをつけ、あることないこと、二代^{だいに}も三代^{だいに}もまえへさかのぼって、むかしの古いいろいろなことをほじくりかえして、難題^{なんだい}を持ちかけました。その罰金^{ばつきん}を今

からだせと、弁ぜつさわやかに、先方を言いくるめて宝を取りあげ、ほうほうのひとびとを泣かせては自分の財産をふやして、とうとう釧路・十勝の宝を、ほとんど自分のうちの宝としてしまいました。

人間の欲には、かぎりがありません。さいごにカネランは、厚岸というところに、まだたくさんの酋長たちが、どっさり宝を持っていると聞いて、こんどは厚岸の宝に目をつけました。

とうとう、ある日、自分でふたりのむす子をつれ、舟で十勝川をくだって、厚岸へ出むいて行きました。

厚岸はさすがに大きく、浜いっぱいに人家が建ち並び、かまどの煙が、雲のように空へたなびいておりました。

村の入口で舟をあがって、岸の上へ小屋がけをし、カネランみずからは、そこにとどまり、まず一番のせがれを、厚岸一の大酋長のうちへやって、

「われらが六代まえの先祖が、おまえたちの先祖のためにころされた。その数は六人にのぼる。今すぐ、その六人の先祖のしかばねの代をはらってくれ。」

と、いくさよりもはげしいこわ談判をしかけさせました。

そのかけあいの、まだおわらないうちに、二番めのせがれをやって、はじめより、なおいっそうはげしく、かけあわせました。二番めのせがれのかけあいの、まだおわらないうち、さらに、カネランみずからおしかけて行きました。

厚岸の酋長のうちでは、朝から、カネランの名におびえあがっておりました。そこへ、カネラン自身であらわれたときには、泣く子も声をひそめました。

カネランが、ゆうゆうと厚岸の大酋長の館へあがったときには、はたして、二番めのせがれのかけあいが、まだ火花をちらしているさいゅうでした。二番めのせがれにかわって、カネランが、いよいよ、その弁ぜつの火ぶたをきりました。あいては八十ばかりのおだやかなおきなで、弁ぜつは、それほどたくさん人ではなさそうでした。カネランは、すぐに、心の底で、みくびってしまいました。そして、厚岸の宝も、もうおれのものだと思いがっているとき、近所のうちから、見たところ、ひどくやせた、小柄な、色の白い、しかし、どこかおちついた年の若い頭が、そこへはいってまいりました。はじめは、だまってカネランの弁ぜつを聞いていましたが、しばらくすると口をき